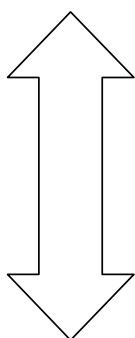


地域情報センター行動計画（平成 26 年度～平成 28 年度）

参考資料

地球的に考え、地域的に行動する



【将来イメージ】 <雇用と産業の創出（地域情報の発信）>

ものづくりが地域内外に発信され外からお金が入ってくる

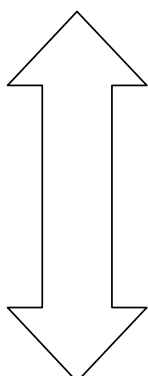
- ・ 高速大容量の通信基盤を活用した地域ブランド商品を開発・販売
- ・ 田舎暮らしの半住・移住促進につながる情報通信基盤の確保・SOHOの事業展開
- ・ 地域特性を生かした農林水産品の需要と供給の最適化（ネット・産直）

【将来イメージ】 <誇りの再発見（地域内外の交流）>

地域活動やサークル活動などが地域内外に発信されている

- ・ 地域内の交流が活発になり、地域内文化が展開される
- ・ 自己実現（創造的活動や自己の成長を図れること）が達成され、満足度を保てること

いつでも、どこでも、だれもが活用できる地域情報基盤



【将来イメージ】 <防災・防犯（南海・東南海地震等の危機管理）>

安心安全な生活を支える情報化が図られている

- ・ 地震等の災害が発生したとき、適切な情報を発信し入手できること
- ・ 防災の予防活動ができるよう防災・災害情報の提供が充実していること

【将来イメージ】 <格差是正（地域内の一体感の醸成）>

いつでもだれもが等しく情報を入手できる

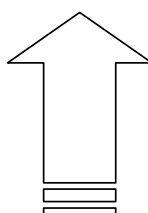
- ・ 旧3町村の情報基盤の格差是正による情報発信・入手の機会改善
- ・ 行政情報の提供コストの平準化と受益者負担の最適化

【将来イメージ】 <通信と放送の融合（技術の陳腐化対応）>

新しい技術の採用が住民にとって使いやすい

- ・ 通信放送事業者の事業化困難地域（山間辺地）については行政が補完すること
- ・ 通信や放送などの技術進展の動向を把握し、過度な設備投資をしないこと
- ・ パソコン操作の学習機会の提供と情報弱者へのやさしい支援

見て、聞いて、話せる手段と参画の場の確保



【将来イメージ】 <広報広聴（住民と行政の協働）>

早く正確で理解しやすい情報のもとに住民の意思表示ができる

- ・ 車座談議やパブリックコメントなど多様な機会住民の声を反映すること

【将来イメージ】 <情報共有（住民と行政の協働）>

同じ目線で地域づくりに参画し行動できる

- ・ 町長と住民と同レベルの情報を得ることが可能で、町の動きが良く解ること
- ・ 行政サービスのコンテンツの充実が図られ参画することができること

②データベース登録内容凡例（図書等）

窪川町史（2005年版）

カテゴリ：図書類

書名：窪川町史

書名よみ：くぼかわちょうし

著作者等：窪川町

著作者等よみ：くぼかわちょう

出版元：窪川町史編集委員会

刊行年月日：2005.3

ページ数：14, 1114p, 図版[26]p

大きさ：22cm×31cm

ISBN：978-4334037543

タグ：窪川町;市町村史

所蔵：四万十町立図書館ほか

収蔵：原本（電子媒体以外）;複製（電子媒体）

窪川町・東又村・仁井田村・松葉川村・興津村が合併（1955年（昭和30年）1月）し、新窪川町が誕生して50周年を機に制作された町史。1970年（昭和45年）に前版が発行されている。

※この資料は全文をpdfファイルで公開していますpdfファイルへのリンク

【目次】

口絵

発刊のことば

町史編集に当たって

凡例

第一編 自然

第一章 窪川の自然

第一節 地勢

1 位置・面積

2 地形

3 地質

4 海洋

第二節 気候

- 1 気候
- 2 気候特性とくらし
- 3 気象災害

第二章 窪川の生物

第一節 窪川の動物

第二節 窪川の植物

- 1 窪川の植物群
- 2 鎮守の森の植生
- 3 窪川の注目種と保全

第二編 考古・古代・中世

第一章 考古

第一節 概説

第二節 旧石器時代

第三節 縄文時代

- 1 草創期
- 2 早期
- 3 前期
- 4 中期
- 5 後期
- 6 晩期
- 7 その他の縄文時代の遺跡
- 8 まとめ

第四節 弥生時代

- 1 土器・石器が出土した遺跡
- 2 青銅器が出土・伝世している遺跡等
- 3 まとめ

第五節 古墳時代

- 1 遺跡の概要
- 2 まとめ

第六節 古代～中近世の考古学

第二章 古代====以下の目次略====

【関連項目】

窪川町史（1970年版）

③データベース登録内容凡例（自主制作番組）

四万十放送室（第 68 回）

カテゴリ：その他

タイトル：四万十放送室（第 68 回）

タイトルよみ：しまんとほうそうしつ

制作：四万十町ケーブルネットワーク

著作者等よみ：しまんとちょうけーぶるねっとわーく

放送年月日：2011.11.11

時間：15 分

タグ：四万十ケーブルテレビ

所蔵：四万十公社

収蔵：複製（電子媒体）

四万十ケーブルテレビ自主制作番組（放送日：2010/11/11 ～ 2010/11/18）

※この番組はインターネットでも視聴可能です（四万十ケーブルテレビのネット加入者のみ）

【放送内容】

「美術館主催写生会の結果決まる」

4 月 20 日：道の駅四万十とおわで、四万十川のほとりを舞台にした写生会が行われた。これは、四万十町立美術館が初めて開いたもの。画家の高垣恵一さんや長谷部正さんなどが、参加者にアドバイスをを行った。また、6 月 22 日には町立美術館で表彰式が行われた。作品展は町立美術館で 7 月 4 日まで。その後入賞作品は、7 月 18 日～8 月 20 日まで道の駅四万十とおわで展示される。

参加者インタビュー

表彰式挨拶：四万十町立美術館 伊原満 館長

インタビュー：大人の部で 1 位に選ばれた 武田円霞さん

インタビュー：子どもの部で 1 位に選ばれた 吉川大夢さん

「防災教育の取り組みを講演」

5 月 27 日：土砂災害防止功労者に贈られる、国土交通省の大臣表彰を受けた、十川小学校の松岡雅士校長が、四万十町青少年町民育成会議の総会で講演を行った。四万十町

農村環境改善センターで行われた講演では、十川小学校で2年間取り組んできた、土砂災害に関する防災教育の取り組みを発表した。

「緑林公園で毎月イベントを」

6月16日：親子連れが、定期的に交流出来る場を作ろうと企画された「緑林サンデーマーケット」が、初めて開催された。このサンデーマーケットは、四万十手仕事市のメンバーが企画したもの。毎月第3日曜日。現在、出展者も募集している。

「量販店で古紙回収サービス」

6月23日：琴平町にあるスーパーマーケット「サンシャイン四万十」で、古紙回収サービス「しまんとエコステーション」が始まった。店舗東側の駐車場横に設置された回収ボックスには、紐で束ねた古紙が投入できるようになっており、重さに応じてポイントカードにポイントを溜められるようになっている。6月7日から運用を開始した。

インタビュー：サンシャイン四万十 弘瀬哲男 副店長

「四万十消防団総合演習大会」

6月23日：「四万十消防団消防総合演習大会」が四万十緑林公園の駐車場で行われた。台風シーズンを控え、各団の装備の確認や団員の士気向上を目的に毎年この時期に行われている。午前9時から午後4時頃まで行われた。結果・・・1位：松葉川分団 2位：十川分団 3位：昭和分団
ポンプ操法、自動車の部1位の十川分団と、小型ポンプの部1位の松葉川分団は、10月に行われる予定の、県の消防総合大会へ出場する。

【関連項目】

道の駅四万十とおわ

四万十町立美術館

十川小学校

緑林サンデーマーケット

サンシャイン四万十

四万十消防団

④町内トピック（着手中）

- ・ 四万十町統計書（平成 25 年 11 月完成予定）
- ・ 高知新聞社データベースインデックス（約 5,000 件）
- ・ 四万十町関係 web サイトリンク集（現在 114 件）
- ・ 四万十町関連番組インデックス（全チャンネル録画機の運用，6 月より実施）
- ・ 自主放送過去番組等のネット配信（8 月より実施）
- ・ 自主放送番組インデックス（番組内容の書き起こし）
- ・ 高知こども詩集インデックス（やまもも）
- ・ 郷土史誌インデックス（土佐民俗，土佐史談）
- ・ ニュース映画インデックス（県民ニュース，97 件） 以上

⑤町内トピック（企画段階）

- ・ 道の記録（町内道路の車載映像，定点観測）
- ・ 未使用シンクライアントシステムの活用（旧大正町，過去番組視聴用等ネット環境体験ツール，デジタル掲示板，観光客向け情報提供，専用システム不要）
- ・ 南海地震の記録
- ・ 町内の祭り、神社、仏閣のインデックス（地域へのアプローチの手がかり）
- ・ グラフ誌インデックス（県民グラフこうち）
- ・ 廃校になった学校の記録
- ・ 四万十町及び旧町村広報誌インデックス
- ・ 団体機関紙等の pdf 化請負（二次利用許諾を条件に）

⑥自主制作番組の例（ニュース映画 16 ミリフィルムの利用）

るるぶら番外編として、予土線の歴史（建設風景）紹介。今の映像を入れられるところがあれば、オーバーラップさせて現在のものと比較。当時祝賀パレードなどに小中学生で参加していた人、建設に携わった人のインタビューを入れながら。存続の危機などもあったが、現在はトロッコ列車（発祥の地）やホビートレインなど特色ある列車が走って、話題の路線になっているというストーリー。15分、前後編で構成。

【使用するニュース映画の内容】

「高知県視聴覚ライブラリー」に所蔵されている 16mm フィルム「県民ニュース」。昭和 30～40 年代の、高知県全域の話題を取り上げており、旧窪川町・大正町・十和村に関する映像が含まれる。

● 100 億円の工事始まる－国鉄窪江中村線－（1959 年の映像）

窪川駅の様子。窪川江川崎、窪川中村市を結ぶ、国鉄窪江中村両線建設の夢は、地元民 30 年の努力が実って 5 月 17 日、両線の分岐点となる窪川町西原に式場を設けて、両線着工の鍬入れ式を行った。式場には晴れ姿のシノカワ・オバタ両線キセイ同盟会長らを始め、国鉄代表知事地元選出国会県会議員など、関係者多数が参列。国鉄代表のフジタ大阪工事局長がつるはしを握って着工の桑を打ち下ろした。ひき続いて、窪川中学校講堂に、沿線市町村や関係者 200 人が集まって起工式が盛大に行われた。総工費 100 億円、工事資材が続々と送り込まれて、工事が始まった。／ここまで国鉄では、完工は 4 年先、遅くても 40 年度とっている。

● 国鉄窪江線工事すすむ（1970 年台の映像）

昭和 48 年の営業開始を目指して、国鉄窪江線の最後の工事が今急ピッチで進められている。国鉄窪江線は、窪川町と江川崎の間、39 キロを結ぶもので、34 年の春からおよそ 80 億円で進められ、今最後の工事である昭和～田野々間、およそ 5.3 キロで路盤工事や鉄橋工事が行われている。鉄橋工事は、大正町の田野々など 4ヶ所で進められており、ヤジロベエ工法と呼ばれる、足場を組まずに作られる変わった工法である。そして作業員たちは、ワイヤーで吊るされてくる材料を運ぶ作業に、およそ 30 メートルもある場所で忙しく働いている。またそれに並行して、残りの路盤工事も、十川やフジノカミなどで行われ、今年いっばいの歓声を目指して順調に進んでいる。こうして 47 年度中には全線にレールが敷かれて、江川崎と窪川が結ばれることとなっている。

●予土線開通（1974年3月1日）

北播住民の半世紀あまりの悲願であった、国鉄の四国西部循環鉄道予土線が、49年3月に開業した。列車の発車式は、西土佐村の江川崎駅と窪川駅でそれぞれ行われた。窪川駅では、地元中学生がブラスバンドで祝賀気分を盛り上げ、女子中学生が午前9時36分発、宇和島行き快速列車の運転士、ニシヤマユキオさんに花束を手渡した後、溝淵知事らがテープにハサミを入れ、いよいよ出発。6両編成の列車は招待客や団体客、鉄道マニアでほぼ満員。予土線は、予讃線の北宇和島駅を起点に中村線若井駅に至る区間で、新しく開通したのは江川崎駅から川奥信号場所39.1キロ。昭和32年建設認可を受けて以来、17年の歳月とおよそ97億円がつぎ込まれた。窪川駅を出た列車は、初めての停車駅、土佐大正までを、およそ23分で走った。パレードの後、招待客およそ500人が出席して、大正中学校で国鉄と鉄建公団主催の竣工全通式が行われ、開業を祝った。





⑦自主制作番組の例（企画：「通信費の無駄遣いしていませんか？」）

家庭で「通信費」といえば、電話とインターネットを利用するために毎月支払っているもの。電話は固定電話と携帯電話やスマートフォン、インターネットもケーブルテレビや電話会社などの回線以外に、携帯電話会社への支払いもあるでしょう。

総務省統計局が公表している「家計消費状況調査」によると、この10年間、家庭の収入は横ばいもしくは減少傾向である一方で、通信費は年々増え続けています。平成24年度の調査結果では、二人以上の勤労世帯が毎月支払う通信費の平均が月額約2万円。うち携帯電話がその6割以上を占めています。

今や、インターネットや携帯電話は生活に無くてはならないものになってきていますが、もしかしたら通信費の無駄遣い、していませんか？

- 携帯電話やスマートフォンのインターネット接続料金について、町内で利用できる三社（docomo, au, softbank）の利用明細を使って説明。
- 利用料金が高額になる要因は、パケット定額料金と通話料の2つ。利用傾向別の節約方法を紹介。
- 自宅や会社でパソコンを使ってインターネットに接続する場合、固定回線を利用して室内では無線LANで接続するのが便利。スマートフォンやゲーム機も接続可能。スマートフォン利用者で、外出時にインターネット接続をする機会が少ないのであれば、パケット定額を解除して自宅では無線LANから無料でインターネット接続すると、通信費が大きく節約可能。
- webサイトでは、統計内容の詳細から各携帯電話会社の利用明細についての解説ページ、通信費節約術を紹介した各種サイトのリンクなどを紹介する。

●携帯電話やスマートフォンに関しては、小中学生にも普及しつつある無料アプリのLINE（ライン）などが話題にもなっており、個人情報の流出などの事件も発生し、その対策が急がれているが、大人の利用者でも「実際にどこまでの情報が他の利用者から見えているのか？」「こういう使い方が、実は危険であったりする」などの知識が浸透しているとはいえません・・・などの話題にも派生させることが可能。